

平成30年度 豊富小学校 校内研究について

1 研究主題

自ら学びを深める児童の育成 ～授業改善と家庭学習の取組を通して～

2 主題設定の理由

(1) 学校教育目標において

学校教育目標

「心豊かに、かしこく、たくましく生きる子どもの育成」

めざす子ども像

- ・ 進んで学び、深く考える子ども(知)
- ・ 感性豊かで、思いやれる子ども(徳)
- ・ 命を大切にし、がんばる子ども (体)

生涯にわたって生きてはたらく確かな学力を一人ひとりの児童に保証することが、学校教育の使命である。そして、これからの時代を賢く逞しく自分で切り拓いていくために、知識・技能の習得とともに、自ら学びに向かい、思考・判断・表現しながら学びを深める力を育成することが強く求められている。

そこで、今年度も児童が意欲的に学ぶ質の高い学びを実現する授業づくりと家庭学習を充実させる取り組みにより、本主題「自ら学びを深める児童の育成」をめざし、学校教育目標の具現化を図っていく。

(2) 地域や家庭・子どもの実態から

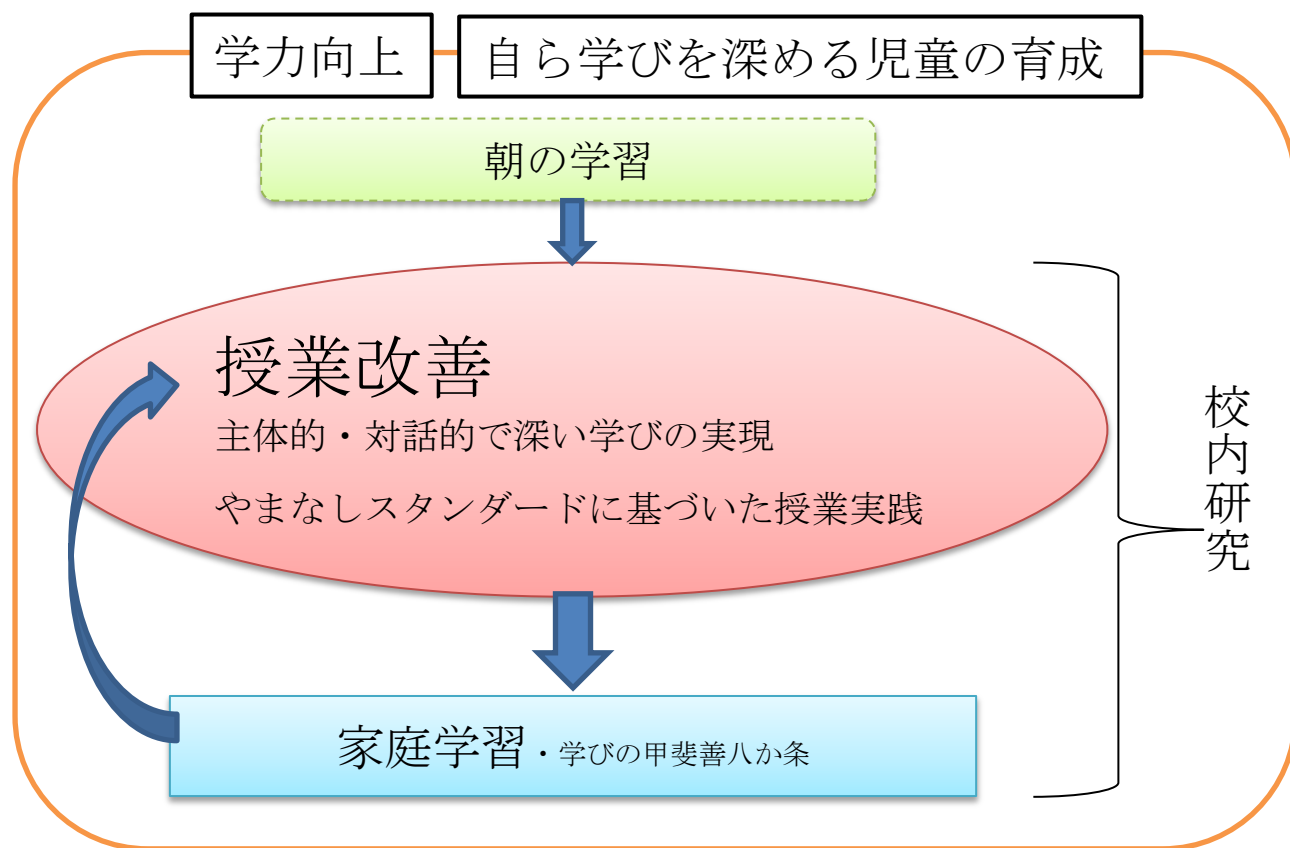
本校は、中央市の中でも農村部の旧豊富地区に位置し、かつての一村一小学校時代の伝統を受け継いで地域と学校との結びつきが強く、学校に対し協力的な地域である。また、授業参観や学年懇談会への保護者の出席率も高く、学校への関心が高いことがうかがわれる。地区懇談会や学校開放日など、家庭や地域と共に児童の教育について考える行事が今も行われている。一方、本地域も他地域と同様、仕事や日々の生活に追われている家庭が年々増えている。

児童は、明るく素直で、友達や他学年とも進んでかかわり、地域の自然や文化に親しみながら生き生きと生活している。学習においては、学習への意欲が高く、与えられた課題に対して真面目によく取り組む児童が多い。しかし、学力向上は喫緊の課題であり、各種学力調査などからは、情報を読み取り、そこから課題を見出し、適切に考え、表現していくことについて課題があることがわかる。特に1月に実施したC R T学力検査では、国語では、読む能力と言語についての知識・理解・技能に課題が見られた。算数では、数学的な考え方や数量や図形についての技能に課題があり、特に量と測定領域、図形領域がやや苦手であることが分かった。また、昨年行ったアンケートでは、ゲームやテレビ、インターネット動画視聴などに費やされる時間が長く、家庭学習の習慣が定着しにくい実態も分かってきた。授業と家庭学習の両面から学習を充実させ、自ら学びを深めていく力を育成していく必要があると思われる。

2 研究目標

やまなしスタンダードと主体的・対話的で深い学びを意識した授業づくりを通して授業を改善し、家庭学習を推進することにより、自ら学びを深める児童の育成に迫る。

3 研究の構想図



4 研究においてめざす児童の姿

- (1) 課題をもち、主体的に学習する児童
- (2) 知識を身につけ、学習に生かしていく児童
- (3) 友達と交流しながら、考えを広げたり深めたりする児童

5 研究内容と方法

学力テストや家庭学習等の実態調査から課題を焦点化し、授業や家庭学習の改善に取り組む、取組の結果を検証する。

(1) 授業改善の取組

- ・今年度は算数科に焦点を絞って取り組む。

- ・主体的・対話的で深い学びを目指して、授業の質の改善を図っていく。
- ・やまなしスタンダードを意識して日々の授業実践を行う。
- ・C R T等から見えた課題や教師の学習指導上の課題から、ブロックで共通の取組内容を話し合う。
- ・主体的・対話的で深い学びについて学習を深める。(講師を招聘した学習会)
- ・各自が授業改善のめあてを決め、それに対する手立てを講じ、日常の授業改善を行う。

(県の一人一実践の取組とも関連させる)

(計画→授業改善→評価→更なる改善の計画というP D C Aサイクルを意識する。)

- ・2学期に一人一実践の授業開示を行い、授業の反省を行う。(学級担任・教務主任)
- ・ブロック代表による実践提案授業と事後研究会を行う。(一人一実践を兼ねる)
- ・授業開示及び実践提案授業の反省や参観者の意見、研究会で話し合われた内容等を、授業者が研究通信(A4で1枚)で発行し、職員全員で共有し、学び合う。

(2) 家庭と連携した家庭学習定着の取組

学校で

- ・家庭学習やゲームをする時間等の実態調査を行う。
- ・実態調査の結果や振り返りカードの取組状況を踏まえ、望ましい家庭学習の在り方や内容について話し合い、家庭学習の習慣化や内容の向上にむけて全クラス、全校で取り組む。
- ・宿題の工夫(量・内容)
- ・自主学習に結びつける工夫
(自主学習ノートの導入、自主学習の仕方の紹介、自主学習の展示等)
- ・家庭学習と授業をリンクさせる工夫
- ・声かけの工夫 等

家庭に向けて

- ・家庭学習が習慣化するように、家庭と協力して具体的な取り組みを行う。
 - ①家庭学習の手引きの活用(中央市版の冊子、掲示用に本校版等)
 - ②日にちを決めて、家庭学習の振り返りを行う。(振り返りカード)
- ・家庭への啓発を行う。
(実態調査の結果のお知らせ、振り返りカードの取組状況のお知らせ等、学校からも担任からも家庭への声かけや情報提供を行う。)

(3) その他

- 夏休みの校内研修は、独自に学習・研修する機会として、今年度は特別支援教育に関わる学習会を行う。
- 印刷室に校内研究の情報コーナーを設けたり、研究通信を発行したりして情報の共有を図る。
- 他校の研究会に積極的に参加し、還流報告を行い、職員全体の学習につなげる。
(校内研究の中で、もしくは回覧)
- 研究に必要な教具・書籍・講師等については、校長・教頭・事務職員と相談しながら、講師の要請、予算の獲得、教材・教具の購入を行っていく。
- 学校便りや学年便りで学校の取組を紹介したり、P T A活動でもゲームの時間の制限や家庭学習の推進を呼びかけたりして、家庭の協力が得られるようにしていく。